

名勝高田松原の再生をめざして



東日本大震災前の高田松原

岩手県陸前高田市 高田松原を守る会

平成25年1月11日制

第1部 東日本大震災前の高田松原



東の浜田川と西の気仙川との間、キャピタルホテル1000の前に2 kmにわたって白砂青松の高田松原が広がっていました。ホテルのすぐ前には古川沼がありました。

高田松原の風景(1)



青い空と海、白い砂浜と連なる緑の松林、白砂青松という言葉がピッタリの高田松原でした。

高田松原の風景(2)



松林の中

林の中には、ランニングコースがあり、ジョギングや散歩などで健康づくりに励んだり、季節の草花を楽しんだり…と市民に潤いと安らぎを与えてくれています。



砂浜 ハマヒルガオの群落です。

2 kmにわたる砂浜には、さまざまな海浜植物が見られました。夏は海水浴客でにぎわいました。砂浜に寝そべったり、砂の造形を親子で楽しんだり…憩いの場所でした。

高田松原の風景(3)



高田松原の背後には古川沼があり、美しい景観を作っていました。冬には、いろいろなカモの仲間や白鳥などもゆったりとくつろいでいました。

高田松原の松植栽の歴史



菅野空之助翁の頌徳碑



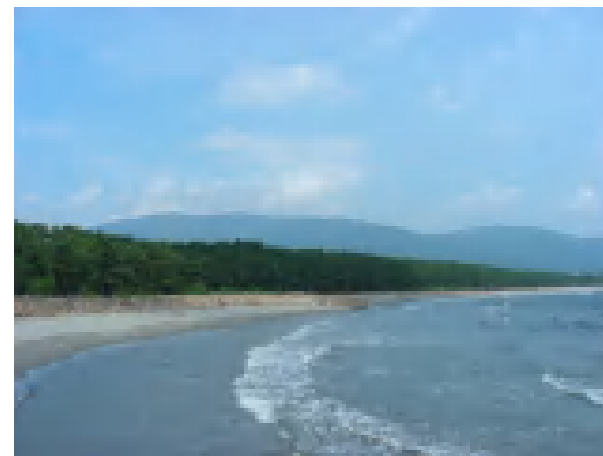
松坂新右衛門翁の顕彰碑

昔、高田松原のあたりは、海からの強風によって絶えず砂塵をかぶったり、海水が浸入したりして草木の育たない不毛の土地でした。その後背地の田や畑も砂をかぶったり、潮風を浴びたり、海水が浸入したりして農作物の収穫できないことが度々あり、農家の人々は、大変困っていました。このような潮風、砂塵などから耕地を守るため、私財を投じて長年にわたり不毛の砂地に苦労を重ねて松苗を植え、立派な松林に育てていった先人が菅野空之助翁と松坂新右衛門翁です。菅野空之助翁とその子孫は江戸時代の寛文7年～延宝元年(1667～1673年)、松坂新右衛門翁は、江戸時代の享保年間(1725～1736年)に松苗を植え続け防潮・防風林を育てました。その後の人々によっても高田松原への松植林は続けられて現在にいたっていました。

高田松原の名勝・文化財の指定など

- 昭和 2年(1927) 日本百景に選ばれる。
- 昭和 5年(1930) 東北10景に入選する。
- 昭和15年(1940) 名勝高田松原として国指定文化財になる。
- 昭和33年(1958) 都市公園となり新日本百景にも入選する。
- 昭和39年(1964) 陸中海岸国立公園に指定される。
- 昭和57年(1982) 東北観光地六十景に選定される。
- 昭和58年(1983) 日本の名松100選に指定される。
- 昭和61年(1986) 森林浴の森日本百選に選定される。
- 昭和62年(1987) 白砂青松百選に選定される。
- 平成元年(1989) 日本の都市公園百選に選定される。
コースタル・コミュニティ・ゾーン整備計画策定。
- 平成 8年(1996) 日本の渚百選に選定される。
- 平成 8年(1996) 海と緑の健康地域に指定される。
- 平成18年(2006) 日本の歴史公園100選に指定される。

白砂青松の高田松原



かつて、詩人であり歌人である石川啄木や俳人、高浜虚子が来遊した高田松原は、東日本大震災まで、かけがいのない市民の憩いの場になっており、毎年、県内外から数十万人の観光客や海水浴客が訪れていました。

この発展の基は、郷土の偉大な先人である菅野空之助翁や松坂新右衛門翁の功績によるものです。現在に生きる私達は、高田松原を郷土のすばらしい財産として大切にし、後世に伝えていかなければならないものと考えていました。

第2部 東日本大震災前の高田松原を守る会の活動

1、高田松原を守る会の発足

昭和46年に「松類の集団枯死の原因は、線虫であるマツノザイセンチュウによって引き起こされ、マツノマダラカミキリが線虫の媒介者である」と発表されました。岩手県で初めて松くい虫被害が発見されたのは昭和54年です。

陸前高田市においても平成9年頃から松の枯損木からマツノザイセンチュウが検出されるようになり、マツノマダラカミキリの繁殖と北上を食い止めるべく、枯損木の伐倒・焼却処理、薬剤の地上散布などが行われてきました。特に、国の名勝に指定されている高田松原を守るために森林病虫害駆除に力が入られてきました。

後世に引き継ぐべき市民の財産であり、国指定の文化財でもある高田松原を守るため、各分野の専門家の指導を得ながら市民と行政が一体となって松林の保全を目指す市民参加のボランティア組織として平成18年3月に「高田松原を守る会」が発足しました。

高田松原を守る会が大震災前に行ってきた活動

1、高田松原の理解を深める活動

高田松原に行き、松林の様子を観察する。

(松林がどうなっているか。枯死したり、弱ったりしている木がないか。ゴミなどで高田松原が汚れていないか。松林や砂浜にどのような植物が生えているか。など)

観察結果は、市農林課に連絡し、枯損木の伐採処理などに生かされたり、市民参加の高田松原クリーン作戦に生かされました。

2、高田松原保全のための活動

(1) 高田松原の清掃活動・海水浴シーズンの前と後

(2) 菌根菌による樹勢の回復を研究されている大阪工業大学の小川

先生を招いての事業

高田松原における菌根菌の散布作業の実施

市民一般を対象とする高田松原保全の講演会の実施

「高田松原を守るために 今 何をすべきか」

高田松原の松葉かき作業の実施

平成22年度の高田松原を守る会の活動例



松の樹勢について小川先生の説明を聞く。



市民
小川先生の講演を聞く



子どもたちも参加して
松葉かき

第3部 東日本大震災後の高田松原

津波で瓦礫になった陸前高田市の主な地域(薄茶色)



地図の中で、薄く茶色に塗られた部分が、津波に襲われ、甚大な被害が発生した地域です。市街地のほとんどが、瓦礫になりました。白砂青松の高田松原も消え
ました。

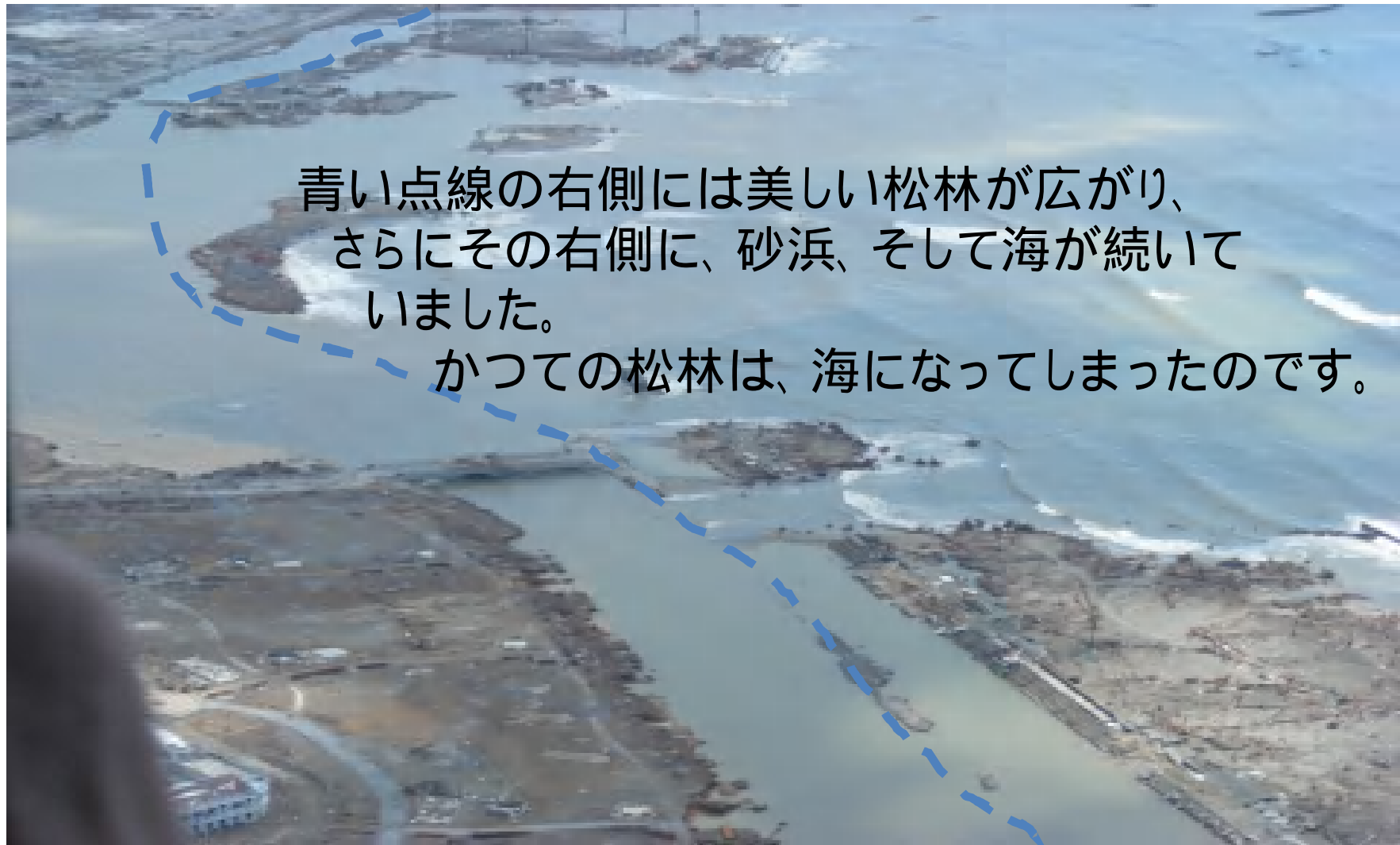
キャピタルホテル1000

広田湾(太平洋に向かって広がっている湾)



この写真は、平成23年4月24日、上空から高田町の市街地を写したものです。たくさんの家、公共の建物、働く場所、病院、田畑などが津波で失われたり、壊れたりしました。1,800名に近い市民が尊い命を失ったり、行方不明になりました。キャピタルホテル1000の前、約2 km にわたって広がっていた国の名勝、白砂青松の高田松原も失われました。悲しく残念です。

上空から見た大震災後の高田松原 平成23年4月24日



津波によって5 mの高さ、2 kmの長さの堤防が破壊され、砂浜や松林が流失し、地盤沈下や浸食で海になりました。

島状に残った高田松原の様子

平成23年5月31日



小さな島になって残ったもとの松林です。根こそぎ倒れた松や幹の途中で折れた松がたくさん見えます。

第4部 奇跡の一本松



平成23年3月23日の奇跡の一本松です。
周囲には、根こそぎ倒された松がたくさんありました。

上空から見た奇跡の一本松・・・一本松のすぐ近くまで海です。



奇跡の一本松の前の建物は、全壊したユースホステルです。
一本松は、この建物によつても津波から守られたと考えられます。
一本松が枝・葉を広げている高さまでは、津波が届かなかつたようです。

平成23年4月24日(日)撮影

奇跡の一本松・・・4度の大津波に耐えました。



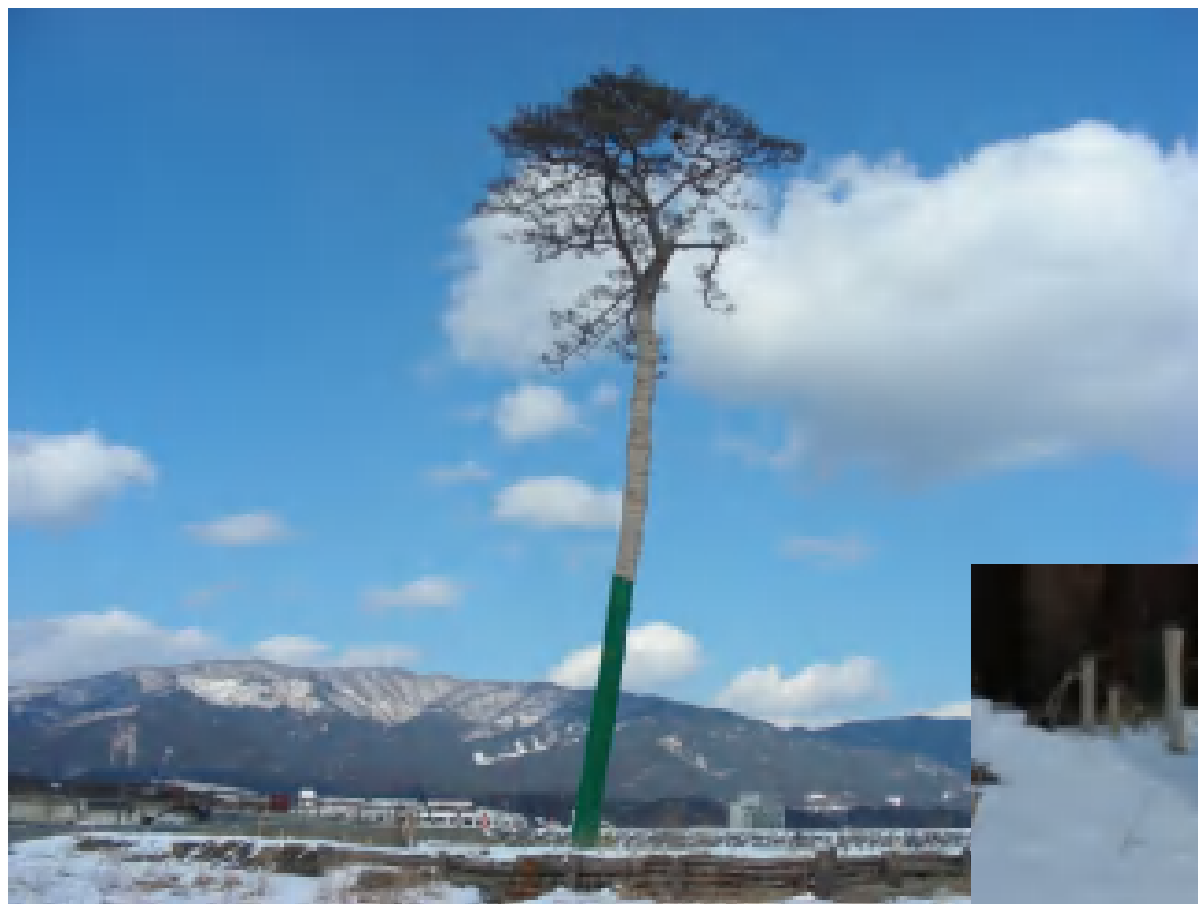
明治29年、昭和8年の三陸大津波、昭和35年のチリ地震津波、そして平成23年の東日本大震災による津波に耐えた奇跡の一本松です。

約7万本あった高田松原の松の木の中で、枝・葉をつけて残ったたった一本の松です。

高さ28.5m、胸高直径87cm、樹齢260年以上と推定されています。

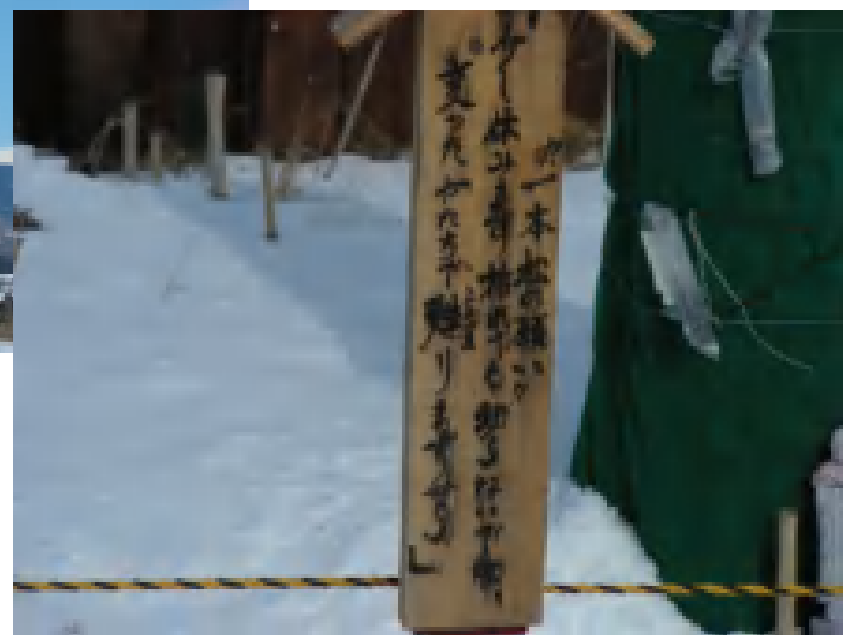
被災した陸前高田市民に希望、勇気、励ましを与え、復興のシンボルになりました。

平成24年2月27日の奇跡の一本松



枝についていた葉は、
枯れ落ちてしまいました。
「枯れても切らないで
ね。」と誰かが立て札
を立ててくれました。

陸前高田市は、津波の恐ろしさを後
世に伝える記念物として残せないか、
検討しているところです。



平成24年5月28日 奇跡の一本松の調査



日本緑化センターと日本造園建設業協会の方々による奇跡の一本松の調査が行われました。

今年の新芽が出ていないことがわかりました。

奇跡の一本松の枯死が確認されたのです。

平成24年9月12日 奇跡の一本松の伐採作業



復興のシンボルとなった奇跡の一本松を長期保存するため伐採し、名古屋や京都の工場では防虫・防腐等の処理をして、平成25年2月、高田松原に再び立てることになりました。

第5部 東日本大震災後の高田松原を守る会の活動



平成23年5月20日
(金)

奇跡の一本松が、新しい根を出せるように活性剤を水に溶かして、一本松の根元に散布しました。

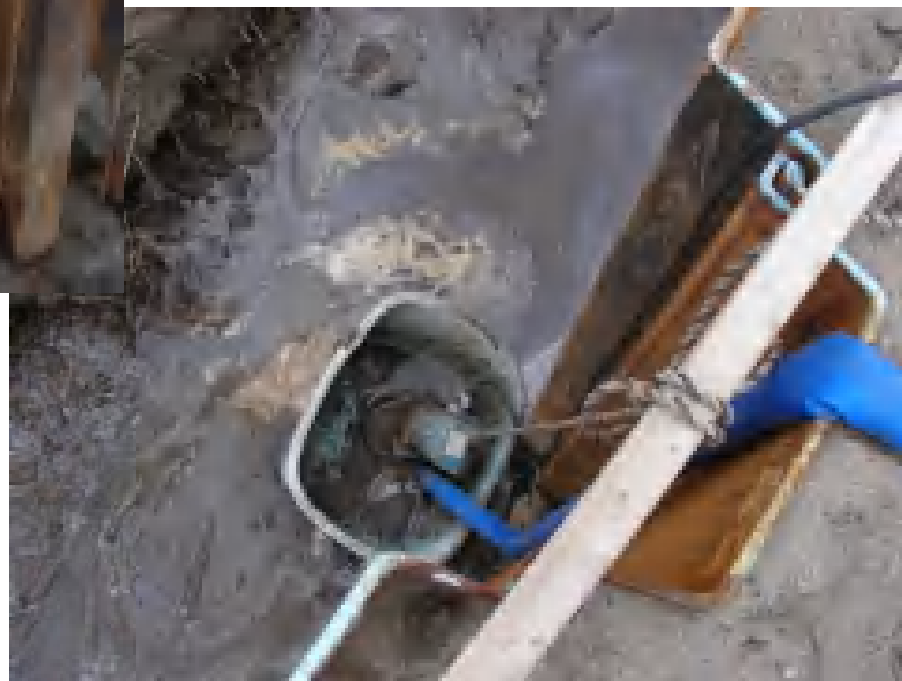


奇跡の一本松の根元に湧き上がる海水の汲み出し作業



日本緑化センター等の指導のもと、この作業を中心になって行ったのは、高田松原を守る会の小山副会長です。

ガソリンや軽油を燃料とする発電機で電気を起こし、それを水中ポンプに送り、水中ポンプで湧き上がる海水を汲み出し除去する作業を、5月から10月まで続けました。



林木育種センター東北育種場(滝沢村)訪問 …平成23年7月25日(月)



奇跡の一本松から
4本の接ぎ木が順
調に育っていました。
写真は長男の
ノビルです。

4本の接ぎ木の他に、高田松原で拾った松毬からの実生の松苗も数百本育っています。



島状に残った元の高田松原の清掃を実施

…平成23年10月30日(日)



小さな島になった高田松原に津波でたくさんのゴミが打ち上げられました。市民のボランティアの協力を得て、清掃活動を行いました。

奇跡の一本松の前で記念写真です。



お借りした休耕田(陸前高田市小友町)の草刈り 作業・・・平成23年11月27日(日)



草刈りの後、畑にして
松苗を育てていく計画
です。



アメリカから来られた
ボランティアの皆さん
にも応援していただき
ました。

お借りした休耕田の土の中の草の根除去作業 …平成23年12月24日(土)



苗木畑にするための
準備作業です。



ボランティアの学生さん
達にもお手伝いをして
いただきました。

平成24年4月8日(日)と5月12日(土)、苗木畑へ松苗移

植



平成24年4月8日



平成24年5月12日



将来の高田松原への移植を夢見て、高田松原を守る会に届けられた松苗を、苗木畑に、会員やボランティアの皆さんで植えました。



夏になると苗木畑は、雑草との戦いです。平成24年7月22日には、高田松原を守る会の会員とボランティアの皆さんで、草取りと草刈りを行いました。

陸前高田市の震災復興計画検討委員会の中で、高田松原の再生をお願いし、復興計画に取り入れていただきました。濃い緑色の部分に高田松原を再生することになりました。



結びに

高田松原を守る会は、平成18年3月の結成以来、陸前高田市の貴重な財産である国の名勝・高田松原を守り育て、次世代に伝え残すことを目的に、市民・行政一体になって、様々な活動を実施してきました。

しかし、東日本大震災で陸前高田市及び高田松原は、壊滅的な被害を受けました。

復興のシンボル、奇跡の一本松に誓って、被災地・東北、陸前高田市及び高田松原の再生に頑張る決意です。支援してくださる皆様、本当にありがとうございます。